



「グランシップこどものくに」前回の様子



グランシップ・スプリング・フェスティバル 「しずおか食彩フェスティバル」& 「グランシップこどものくに」

〜ぱくぱく〜もぐもぐ〜

食べて、遊んで、学べる！

アートや音楽も楽しめるWイベント

美しい景観や観光資源に加えその土地ならではの食や食文化体験を楽しみながら旅をするガストロノミー・ツーリズムは、近年注目を集めている観光のスタイルです。また、食文化を通じて地域の魅力を掘り起こし発信する活動は町づくりなどの政策にも取り入れられており、「食」は人が集う上で欠かせないキーワードとなっています。

日本一高い富士山と日本一深い駿河湾をはじめとする、豊かな自然環境が身近にある静岡県は、収穫量や出荷量が日本一となる農水産物が90品目以上もある、全国有数の海の幸・山の幸に恵まれた地域です。そんな静岡県の多彩な食材や料理が集まる「しずおか食彩フェスティバル」をゴールデンウィークに開催します。静岡県に住んでいても知る機会がなかった美味しいものに出会い、それを育んだ土地の豊かさを感じること

ができるイベントです。

さらに、未就学児とその保護者を対象とした「グランシップこどものくに」も同時開催。6階展示ギャラリーでは、「食」をテーマとした様々な造形体験を楽しむことができます。その他にも、人気の「ゆめのおきがえ」や「からだあそび」など、家族で楽しめるイベントをたくさんご用意しています。

食べることや遊ぶこと、アートや音楽に触れること。こどもも大人も、五感を使った体験で新しい発見がある3日間。ゴールデンウィークはみんなでグランシップ・スプリング・フェスティバルへ！



しずおか食彩フェスティバル & グランシップこどものくに〜ぱくぱく!もぐもぐ!〜

5/3(金・祝)〜5(日・祝) 10:00〜16:00 ■大ホール・海、芝生広場、6階展示ギャラリー 他

最新情報は
こちらから



日本一の食材の宝庫!

静岡県には日本一の食材が盛りだくさん。みかんやさくらえびだけでなく、「これも?」という食材も日本一。生産量や出荷量、消費など様々な分野で日本一となった粒揃いの食材たちを、「しずおか食彩フェスティバル」で巡り、知って、味わって、体験してみませんか。

vol.37 教養よりは愉楽

伝統芸は知るものではなく、身につけるもの。

岩下尚史

大学を出て間もない頃、モナコ公国よりモンテカルロバレエが来日した折、今なお忘れがたき印象を受けたのが、若き日のフレデリック・オリヴィエ主演の『シエエラザード』でした。

若鮎のような肢体を悩ましいほどに躍動させる初々しさに、客席から深い溜息が漏れたことを思い出します。

その舞台を妖しく彩るレオン・バクストの舞台美術も、セルゲイ・ディアギレフが率いた露西亞舞踊の幻影を髣髴とさせ、自ら通を任じる観客を喜ばせました。

しかし、そうした知識上の満足よりも直接、総身にぞっと身に染む甘い戦慄を齎したのは、リムスキー・コルサコフの曲ある調べの男波女波に誘われ、ついには抗い難き官能の水底へ墮ちゆく踊り手の身軀が表現する音楽の美であったのです。

当時、二十半ばの色ざかりであっ

た私は身も世もなく、芸術の愉楽に溺れたのでした。

同じような体験は幼少の頃から幾度となく、私を悦ばせたり、悩ませたり、奮い立たせたり、泣かせたり、そして慰めてくれたものです。

それを初めて認識したのは、幼稚園の帰り道に面した出格子から聞こえる田舎の芸者衆が爪弾く三味線の音々に恍惚と、夢見がちに耳を澄ませた時です。

それ以来、小中高校時代に出逢った弘田三枝子の曲節、ブライアン・フェリーの調べ、荒井由実の半音遣い、清元志壽太夫の美声、マリア・カラスの独吟、晩年の越路吹雪の蘭曲の位などに接しては陶然と酔い痴れ、心神自づと浄まる体験を重ね、そこに音楽の品目の別はありませんでした。

それから上京遊学して直ぐに、来日したカラヤンやホロヴィッツの魔法に罹り、段々と泰西音楽にも深入

りするようになり、海外へ遠征するなどの親戚かせをしたものです。

そんな私にグランシップから、本邦の交響楽団の水準を高めた広上淳一の指揮するNHK交響楽団が、あの懐かしい『シエエラザード』を演奏すると云う、嬉しい知らせが届きました。

さらに、筋の正しい本格の花形と評判の上野通明が、ヴォルザークの『チエロ協奏曲・口短調』を奏でるとあっては、近ごろ流行りの教養を身につけるためにも、亦、愉楽には猶更結構と云う好番組であります。

梅雨の来ぬ間の初夏の宵、お子様のある方はどうぞ御一緒に会場へお運びになり、いかに高音質でも録音では体験出来ない、波濤縹渺たる音楽の海に頭ではなく身を涵され、とかく枯れがちな心を活性化なさいます。如何でしょうか。

TV・ラジオでコメンテーターとしても活躍。
作家・岩下尚史氏のコラムが好評連載中。

岩下尚史(いわしたのひさふみ)……作家。國學院大學客員教授。新橋演舞場(株)退社後、芸者の発生と変遷について著した『芸者論』にて、新人としては異例の第二十回和辻哲郎文化賞を受賞し、本格的な作家活動を開始。その他、三島由紀夫の恋人への取材を基に書き下ろした『見出された恋』、『ヒタメン』などの著作がある。また、日本の伝承芸能や古典的な暮らしについてのエッセイ等も多数著している。現在、季刊『美しいキノ』(ハースト婦人画報社)にてエッセイを連載中。また、現在、新刊発表に向け、鋭意執筆中。

